

2. 開会と平成19年度活動報告

認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議議長 堀田 力

寒い土曜日の午後、これだけ多くの方々がこの報告会・発表会においでいただきましたこと、本当に感謝申し上げます。

この「認知症になっても安心して暮らせる町づくり100人会議」は今回で4回目、「認知症を知り 地域をつくる」キャンペーンがスタートして3年が終わろうとしています。平成19年度も4つの重点的な事業を展開してまいりました。



1つめの事業は「認知症サポーター100万人キャラバン」です。認知症サポーターとなってオンラインリングをはめていただいている方が既に36万人になります。平成21年度までに100万人という目標ですが、きっとこれは達成できるだろうと思います。素晴らしい勢いで、理解者が増えてきていることは本当に頼もしいことです。この動きが単に認知症を理解するだけでなく、権利擁護の意味で、成年後見人、市民後見人、あるいはそのアシスタントになって支えていこうという動きにまで広がっていることはうれしい限りです。

2つめの事業は「『認知症でもだいじょうぶ』町づくりキャンペーン」です。これは本日の第2部で、「町づくり2007モデル」に決定した活動の内容が紹介されます。第1部でもすばらしい活動が紹介されます。ぜひその報告にじっくり耳を傾けていただきたいと思います。

3つめの事業は「認知症の人『本人ネットワーク』支援」です。認知症の方ご本人に自らの気持ちを語っていただき、本人同士のネットワークをつくっていこうという活動です。これも一昨年あたりから芽が出て、今年度はさらに広がってきております。今年度は京都や鹿児島で交流会が行われまし、各地で本人たちが自発的に集まって、キャンペーンに参加いただいています。あるいは本人が一人で地域の集まりなどに行き、認知症というものはこういうものだよということを語っています。これも成果が非常に大きいと思います。本日の第1部では本人のお話も伺いますので、ぜひ耳を傾けていただきたいと思います。

4つめの事業は「認知症の人や家族の力を活かしたケアマネジメント」です。これは、家族の会などのご協力をいただいて、認知症の方の人間としての尊厳を過去から掘り起こしたうえで、その方の今の気持ちを聴いて、理解し、尊厳ある暮らしを実現していこうという動きであります。これも着実に広がっています。

こうした動きは本当に私たちが予想した以上に頼もしい広がりになってきており、それもみんながこの問題を解決していこうという熱い思いが日本中にみなぎっているからだと思います。この動きをさらにさらに深め、目標とする平成26年度には日本中どこにいても認知症の方が安心して暮らし、自分の暮らしを楽しめるようにしたいと思いました。そして、それをみて我々が認知症になっても全くだいじょうぶなんだと、そう信じられる日本にしていきたいと考えています。みんなの力をあわせていきたいと思います。

本日も素晴らしい活動が紹介されます。いっしょに理解を深めていきましょう。ご清聴ありがとうございました。